

Marie Curie の物語

“人生は誰にとっても簡単ではありません。しかしそれが何だというのでしょうか？私たちは忍耐強く、特に、自信に満ち溢れていなければなりません。私たちはみんな神から才能を与えられており、それを全うしなければなりません。”

Marie Curie は初めての女性ノーベル賞受賞者であり、初めて2度に渡り受賞した人物でもあります。獲得した賞金は、まずパリにある自分の家の配管と壁の修理費に充てました。世界で最も賞賛に値する賞の資金を平凡な用途に使用するということは、彼女の2つの側面を物語っています。彼女はもちろん最も有名な科学者ですが、同時に、一人の妻で、後に家庭と仕事のバランスに悩む貧しいシングルマザーでした。「私はよくどうやって科学者としてのキャリアと家庭を両立しているか聞かれました。確かに、簡単ではありませんでした。」しかしながら彼女の功績は、強く考えられていた迷信、「女性と数字は相いれない」を崩す事ができたことは言うまでもありません。

2人の教師の間に生まれた Curie は、物事を探求することを教えられ、幼い頃から父親の実験道具で遊んでいました。しかし時を悪くして訪れた彼女の母と姉妹の死、またポーランド動乱により財産を失い、彼女はパリに移ることになりました。そこで彼女は Sorbonne 大学にて物理と数学の学位を取得することになりました。また彼女はピエール・キュリーと結婚し、共に放射線の研究をすることになり、彼女はポロニウム、その後ラジウムを発見しました。1903年、二人はノーベル賞を受賞、しかし同時期に子どもを失いました。未成熟児(早産児)でした。Curie に頭痛が襲いました。1906年、夫は馬車に引かれ死亡し、彼女は娘2人と共に残されました。彼女は悲しみを研究に向け、癌治療など医療用途向けの放射線研究を始めました。そして1911年、彼女は薬学の分野でノーベル賞を再度受賞することになりました。

たくさんの他の研究者のように、1934年、彼女は放射能の影響により悪性貧血を引き起こし、自分の仕事によって命を絶つこととなりました。今日、彼女が残したノートは放射線汚染によって扱う事ができません、彼女の料理本と同様に。

現状は？：

2009年までに40名の女性がノーベル賞を受賞し、物理、化学、経済、医療、生理学分野では16名の女性が受賞しています。